

プラごみで海洋生物が傷ついているのを知って嘆く場面を熱演する出演者



## 脱プラごみ 演劇で啓発

松江で 生態系への影響訴え  
市民団体

プラスチックごみ削減へ向けた意識啓発を図ろうと、環境市民団体にびきエコクラブがこのほど、松江市東出雲町指屋の東出雲ふれあい会館で、環境問題をテーマにした自作劇「海亀の涙」を上演し、プラごみが深刻な海洋汚染と生態系への悪影響を引き起こすことを訴えた。

「海亀の涙」はスーパーを経営する一家が、プラごみによる環境汚染を知り、過剰包装やレジ袋の廃止を進め、脱プラごみを目指す店舗へと変わっていく物語。メンバーが役になりきって、人間のエゴにより身近な生き物が苦しむ現状を変えようと主張した。北垣幸久会長(72)は「この劇を契機に一人一人の意識を変えてもらいたい」と願った。

同クラブと消費者問題研究会東出雲グループが主催。鑑賞した市立出雲郷小学校1年の田中星羽(ほな)さんは「絶対に捨ててはだめだと分かった」と話した。

(藤本ちあき)

紙面編集・金森 達夫